

★がん性疼痛治療薬について★

Q1、がんの痛みの治療を開始する際、どのようなことを目標にしたらよいですか？
また、鎮痛薬使用についての決まり事はありますか？

A1、●WHOでは、がん疼痛治療の目標として、まずは3つの段階を設定しています。

- ◇第1目標は、痛みのために眠りがさまたげられないこと。
- ◇第2目標は、安静にしていれば痛みを感じないこと。
- ◇第3段階は、体を動かしても痛みが強くないこと。

そして最終的には、痛みの消失が維持され患者の生活状況が平常に近づくことを目標とされています。

●痛みの治療は、薬物療法と非薬物療法の組み合わせが必要ですが、鎮痛薬使用が主役となります。使用に際しては、表1に示す「鎮痛薬使用の5原則」が示されています。

【表1 鎮痛薬使用の5原則】

1、経口投与(最も簡単な投与経路) (by mouth)	
2、時間を決めて規則正しく (by the clock)	
3、除痛ラダーに沿って効力順に (by the ladder)	
4、患者ごとの個別容量で (by the individual)	
5、その上で細かい配慮を (attention to detail)	

Q2、除痛ラダーとはどのようなものですか？

A2、

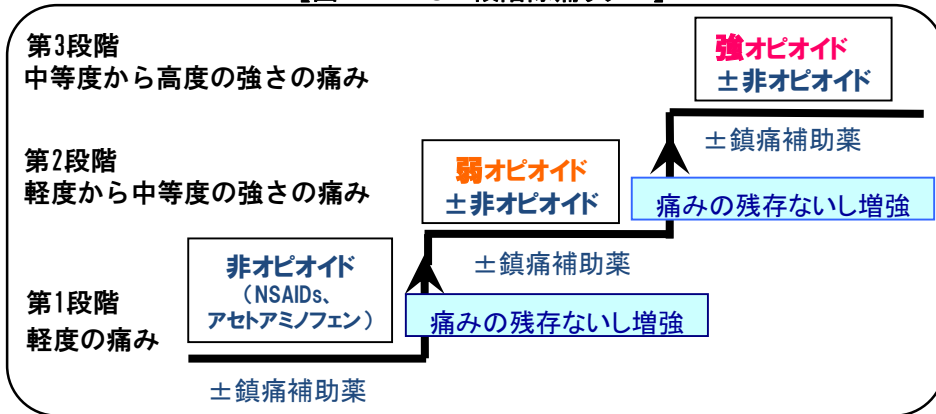
除痛ラダーとは、段階的に鎮痛薬を選択できるようにWHOによって示されたもので「WHO三段階除痛ラダー」と呼ばれます。

(図1参照)

軽度の痛みに対しては第1段階の鎮痛薬を使用し、痛みが強くなるに従い第2段階、第3段階へ進んでいきます。

しかし、最初から、中等度から高度の痛みがある場合には、第2・第3段階の鎮痛薬による治療からスタートすることもあります。

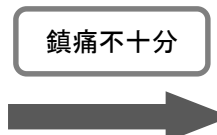
【図1 WHO三段階除痛ラダー】



Q3、経口投与が可能な場合、院内では主にどのような薬剤が用いられますか？

A3、

WHO除痛ラダー第1段階の開始 (NSAIDs、アセトアミノフェン)	
胃腸障害・腎機能障害	
なし	あり
カロナール ロキソプロフェン ナイキサン	カロナール セレコックス(胃腸障害症例)



WHO除痛ラダー第2～第3段階の導入 (オピオイド製剤)	
重度の腎機能障害	
なし	あり
オキシコンチン カディアン(呼吸困難時)	オキシコンチン

●第1段階でNSAIDsやアセトアミノフェンを用いる場合、胃腸障害・腎機能障害などを確認して、薬剤を選択します。

●第1段階で鎮痛効果が不十分な場合、第2～第3段階としてオピオイド製剤を選択します。

NSAIDs、アセトアミノフェンは中止しないで併用します。

●副作用予防と対策(例:オピオイド製剤の場合 便秘や嘔気など)、レスキュー薬の指示を確認しておくことが大切です。

●適応があるときには鎮痛補助薬を併用します。

・痛み治療の強化(神経障害性疼痛治療薬の選択、神経圧迫による痛みに対するコルチステロイドなど)

・痛みに伴う不眠、不安、うつ状態などの精神的変調の治療(夜間の鎮静薬、抗不安薬、抗うつ薬など)